

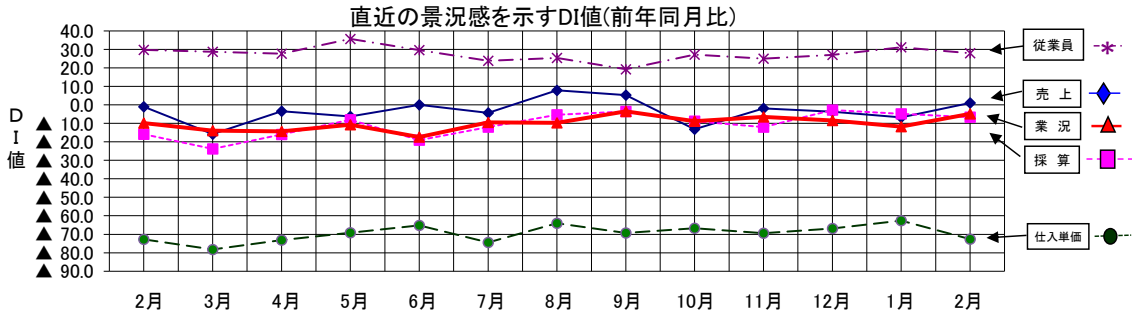
【2月の概要】

売上DI・業況DIは持ち直す一方、仕入コストの重さが景況感を下押し

直近の景況感を示すDI値では、「売上DI」が前月の▲6.8から1.0へ改善し、プラス圏に転じた。「業況DI」も▲11.7から▲4.8へ改善するなど、持ち直しの動きがみられる。一方で、「採算DI」は▲4.9から▲6.7へ悪化した。特に「仕入単価DI」は▲62.6から▲72.6へ大きく悪化しており、仕入コストの負担感が強まっている。「従業員DI」は31.1から27.9へ低下し、前月比ではやや改善したものの、水準としては引き続き高く、人材確保の課題は残っている。

向こう3か月間の先行き見通しでは、「売上DI」が2.9から1.0へ、「採算DI」が▲2.9から▲7.7へ、「業況DI」が▲5.8から▲8.7へと、それぞれ前月を下回った。「仕入単価DI」も▲39.8から▲53.9へ大幅に悪化しており、先行きについてもコスト負担の重さが意識されている。一方、「従業員DI」は30.1から28.9へ低下し、前月比では改善方向にあるものの、人材確保の課題は依然として続いている。

コメントでは、大雪や寒波の影響による現場作業の中止や物流の遅延など、天候要因が事業活動に影響を及ぼしているとの声が多くみられた。また、原材料や設備関連コストの上昇により、採算確保が難しくなっているとの指摘もあった。一方で、燃料費は暫定税率廃止の影響で低下しているものの、他の仕入価格は高止まりしており、全体としてコスト面の制約が景況感に影響を与えている様子が窺える。



【直近の景況感を示すDI】 ※DI(景況判断指数: Diffusion Index の略)=(良い割合)-(悪い割合)  
※従業員=(不足)-(過剰)

	2025年	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2026年
	2月												2月
売上	▲1.0	▲15.8	▲3.4	▲6.3	0.0	▲4.3	7.9	5.3	▲13.2	▲1.9	▲3.7	▲6.8	1.0
採算	▲15.8	▲23.8	▲16.0	▲8.0	▲19.1	▲12.0	▲5.3	▲3.5	▲8.8	▲12.0	▲2.8	▲4.9	▲6.7
業況	▲9.9	▲13.9	▲14.3	▲10.7	▲17.4	▲9.4	▲9.7	▲3.5	▲8.8	▲6.5	▲8.4	▲11.7	▲4.8
仕入単価	▲72.8	▲78.2	▲73.1	▲69.2	▲65.2	▲74.4	▲64.0	▲69.3	▲66.7	▲69.4	▲66.8	▲62.6	▲72.6
従業員	29.7	28.7	27.7	35.7	29.6	23.9	25.4	19.3	27.2	25.0	27.1	31.1	27.9

- ・前月比でマイナス幅が減少(改善)したDI値: 売上+7.8ポイント、業況+6.9ポイント
- ・前月比でプラス幅が減少(改善)したDI値: 従業員▲3.2ポイント(人手不足感が弱まった)
- ・前月比でマイナス幅が増加(悪化)したDI値: 採算▲1.8ポイント、仕入単価▲10.0ポイント

【向こう3か月間の先行き見通しを示すDI】

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
12月回答	▲7.5	▲10.3	▲15.9	▲47.7	23.4
1月回答	2.9	▲2.9	▲5.8	▲39.8	30.1
2月回答	1.0	▲7.7	▲8.7	▲53.9	28.9

- ・前月比で見通しが改善したDI値: 従業員▲1.2ポイント(人手不足感が弱まった)
- ・前月比で見通しが悪化したDI値: 売上▲1.9ポイント、採算▲4.8ポイント、業況▲2.9ポイント  
仕入単価▲14.1ポイント

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	電力メンテナンス	今月は大きな工事により売上・採算とも前年同月を上回ったが、一時的な増加にとどまる見込みである。大雪の影響で現場作業の中止や除雪対応が発生し、今後は売上がやや落ち込む可能性がある。
	土木・建築	建設供給の不足や都心部での需要増を背景に、価格転嫁は進んでいる。一方で、設備投資の高騰により、発注者が事業計画を見直したり、施工中の工事が一時停止するケースが増えていると聞く。
卸売業	食品	設備導入を進めるには工事費の高騰や工期の長期化が課題となっており、効率的な設備更新が難しい。その結果、人件費の負担が年々増している。
小売業	ホームセンター	降雪動向を注視し、除雪用品や季節商品のコントロールに留意する。
	菓子	国産原材料(白豆・小豆・もち米など)が不足している。
サービス業	ソフトウェア開発	年度末の駆け込み需要により売上はやや増加する可能性があるものの、例年と比べて大きな変化は見込まれていない。
	タクシー	暫定税率廃止により燃料費は低下したが、他の仕入価格は高止まりしている。前年同月比で売上は伸びたものの、採算が取れない状況が続いている。
	貨物運送	寒波の影響で高速道路や並行する国道の予防的通行止めが相次ぎ、迂回運行を余儀なくされるなど大幅な遅れが発生した。今年は特に大雪の影響が大きい。

※本コメントは、調査結果の一部を編集・要約したものです。内容の趣旨を損なわない範囲で表現の調整を行っています。

早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 2月分 各業界からのコメント

<b>建設業</b>
<p>今月は大きな工事があり、売上、採算共に前年同月より増加している。但し今月だけ特別多くなっているため、今後3ヶ月で見ると「悪化」という形になってしまう。</p> <p>大雪のため、現場の作業中止や除雪作業に人を取られ、売上は多少落ち込むかもしれない。</p> <p>年始から降雪量が増え、例年並みから例年以上の除雪に関わる事業、コストが増えることが予想される。市場では建設供給が不足し、都心部での需要が増している状況を反映し、建設の価格転嫁が進む一方で、設備投資の高騰により発注者の事業計画の見直しや施工中の工事の一時停止等の情報が増えていていると聞く。</p>
<b>卸売業</b>
<p>卸売（公共資材）は、売り上げの峠は越えた。</p> <p>物価高騰による顧客離れ</p> <p>寒波による降雪のため、客足が非常に鈍く売上げに大きく影響した</p> <p>設備導入をするには、工事費の高騰と期間も長期にかかる事が悩ましく</p> <p>効率的な設備を入れることが難しい為、人件費が年々かさんでくる。</p>
<b>小売業</b>
<p>降雪の継続を注視し、除雪用品や季節品のコントロールに注意すること。</p> <p>日本産原材料（白豆・小豆・もち米など）が無い。</p>
<b>サービス業</b>
<p>年度末の駆け込み需要で売上げは若干増加する可能性はあるが、大きな例年と比べても大きな変化は無い見通し。</p> <p>依然として物価高騰の影響は残っている。引き続き適切に価格転嫁継続に取り組みたい。</p> <p>雪の影響もあり、レッスンのキャンセルもある。</p> <p>暫定税率廃止のおかげで燃料費は下がったが、他の仕入れ値が高止まりで推移しており、前年同月日では売上げが伸びたものの、採算が合わない状態が続いている</p> <p>更に、厳冬の影響で転倒する社員に加え、貰い事故による欠勤者が多く満足な売上げに到達できていない</p> <p>毎年2月（1月含む）は売上が伸びずに終わるので今年も同様。3月に少し期待している。</p> <p>売上の増加と利益の確保に困難を感じます。人数は十分ですが、より能率アップを目指します。</p> <p>寒波の影響で高速道路の予防的通行止めや並行する国道の通行止めにより、迂回運行を余儀なくされるケースがあり、大幅な遅れが発生した。今年には特に大雪の影響が顕著である。</p> <p>新潟市近郊の建設市況悪化の懸念有り。得意先含め現場数の現状傾向により、2026年度にて業況悪化懸念あります。</p>